

SDGs経営を推進されている企業二社より、製造業やサービス業におけるSDGs経営の実装に向けて取組紹介を行っていただきました。二社の業種は異なるものの、SDGs経営の推進に向けて共通するポイントも多々ありましたので、一部ご紹介します。

日時:2023年2月10日
形式:ハイブリッド

■SDGsの推進に向けた取組紹介

株式会社ワイビーエム 代表取締役社長 吉田 力雄 氏



○会社のありたい姿は、「2046年(創業100年)に月で孔を掘る」こと。この実現に向けて、まずは社員が自由に意見を出し、考えてみるのが最初の一步だった。

○SDGsを推進するには、社員自身がありたい姿の実現に向けて何ができるか、会社としてどのように変化をしていくか“動機付け”を行うことが重要。

九州教具グループ 代表 船橋 修一 氏



○社員がアイデアを出す際は、収益性については求めないようになっている。収益性が絡むと実現性を気にして妄想が膨らまないため、**妄想をポイント**としている。

○以前は、地域の問題をビジネス化することは非常に難しかったが、SDGsにより**社会課題を明確化**しやすくなった。さらに変化を起こすには一人一人が考えることが重要。私たちに関わる**全ての人が笑顔になれる「具体的な理想」**を描いていきたい。



出島メッセ長崎における会場の様子(ハイブリッド参加:計153名)

■トークセッションのまとめ

ファシリテーター 原口 唯 氏

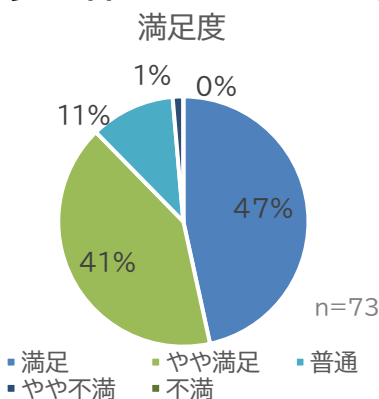


○SDGs経営を進める前に、**まずは将来のありたい姿(妄想、2030年の理想的な姿)を描く**ことが重要。その後、自分自身や会社全体で何ができるかを考えることで、SDGsの推進に向けた取組につながってくる。

○企業経営にSDGsを入れるためには、**未来を担う若い世代の力を原動力とし、多様性を理解**することが重要。さらに、会社として若い世代や多様性を尊重し、今後の社会を担っていくような仕組みづくりを行うことで、将来のありたい姿に近づくことができる。

○今後、**SDGsやサステナビリティの流れは、勢いなくなることは無い**と思うため、そのような潮流を踏まえて経営戦略を立てていく必要がある。それが企業が生き残る合理的なアクションになると思う。

■参加者からのコメント等



○まず、17のゴールに対し、**みんなでやれること、やってみたい事**の意見を出し合っ、それに対し**目標・計画**を作る事から始めてみたいと思います。会社としてやれる事と難しい事がありますが、それも含めて**目標を立てて実行**して行きます。

○様々な事業者が**創意工夫**をしながら、SDGsに取り組んでおられ、**感心**しました。当社も、**少しずつ頑張**っていききたいと思います。

○お二方のお話は、SDGsに対する取組みを通じて働き方改革を推進するという点において**非常に共通点**があると感じました。企業が持続して成長していくためには、何をすれば儲かるかではなく**どうすれば世間の役に立つか**を考えることが重要であると感じました。